

みなみたま

会報「みなみたま」第16号

発行 南多摩同窓会あかね会
 発行者 浜中 賢司
 〒192-8562 東京都八王子市明神町 4-20-1
 東京都立南多摩中等教育学校内
 URL: www.akanekai.org/
 Email: mail@akanekai.org



海外研修旅行（シドニー）（南多摩中等教育学校提供）

目次

【ご挨拶】	ノーベル平和賞を受けた東京の被爆者を支えて （村田 未知子）..... 11
少子化の中で現役生徒と同窓会のつながりを深める （浜中 賢司）..... 2	バスケの名手、画伯に変身（井上 務）..... 12
ご挨拶（宮嶋 淳一）..... 2	バスケットも、絵も、継続は力なり（藤崎 隆司） 12
【学校の動向】	南多摩高男子バスケット部「最長老OB会」の活動 （春日 幸雄）..... 14
令和6年度の取組（桂 優子）..... 3	南多摩高校時代の思い出と交流（高橋 文代）... 15
南多摩中等教育学校卒業生の進路（小出 千亜希）. 5	転機になった南高生活（清水 雅子）..... 16
【新入会員紹介】	南多摩高校卒業の母と私（土谷 宣子）..... 17
南多摩での6年間（山上 友梨紗・黒田 さくら）.. 6	南多摩高校の思い出 吹奏楽部・大学受験から現在 へと（栗原 貴美子）..... 18
【文化祭参加】	埼玉県庁就職後の出来事について（馬場 雄太郎） 18
令和6年「あかね屋」活動報告 （前田 崇志・川上 なつき）.. 7	30代になって（松葉 優樹）..... 19
【卒業生訪問】	【お知らせ】
大森康雄さんにインタビュー（入沢 修自）..... 8	同窓会の活動及び母校支援について..... 20
【南多摩の思い出】	「令和7年度南多摩あかね会定期総会」について. 24
乾徳山の鎖（木崎 勇）..... 10	

ご挨拶

少子化の中で現役生徒と同窓会のつながりを深める

南多摩同窓会あかね会 会長 浜中 賢司

あかね会の大切な活動の一つに、会員の皆様に一年に一度ですが会報を作成し、配布していることがあります。会そのものは116年の歴史がありますが、活動は時代に応じて対応してきたようです。特に開校100周年を契機に学校側との連携も深まり、会報も多くのOBの方々からの近況や各年代のクラス会などの情報もお知らせしております。また、学校も中等教育学校となって今年の卒業生は10期生となりますが、現役の皆様が進路状況などの記事も載せて頂き、母校の生徒の頑張りも誇りに感じるところです。あかね会もできる限りの応援と協力を会員の皆様と一体となって続けてまいります。しかし、会の維持には役員の皆様のご協力が欠かせません。現在、会の役員不足も課題でありまして、是非母校の発展や現役生徒のためにもご参加いただける方にはご連絡いただきますようお願いいたします。

さて、日本で人口問題が叫ばれてかれこれ50年になります。1977年、出生率が2.0を下回って、日本では人口減少が社会問題として大きな位置を占めて、対策が進め

られてきました。しかし、おおむね人口減少を止めることは難しい現状です。しかし、少子化の問題は国の未来に対しても大きな問題です。子どもは国の宝と申しますが、一人一人の重さ大切さが今までにも増して重要になってきました。こんな状況下で子供の教育に関する話題も毎日のように議論されていますが、こうした議論で最も重要なのは教育の質の向上ではないでしょうか。特にいま議論されている給食費や高校授業料無償化などですが子供たちの教育の質について言えばほんの一部の課題です。南多摩中等教育学校も大いに関係する政策ですが、大切なのは、現職の先生方、保護者の皆様、あかね会をはじめとするOBの皆様等、母校に関係する全員の皆様の力を結集して現役生徒の一人一人の質を高める応援をしていくことだと思います。

日本の社会としても少子化が止められないなら、私たち大人の様々な手段をもって、少ない子供たち一人一人の質を上げることこそ大切なことと思います。

令和7年3月

御挨拶

東京都立南多摩中等教育学校 校長 宮嶋 淳一



南多摩同窓会あかね会の皆様におかれましては、日頃より本校の教育活動の展開と充実に向け、御支援・御協力を賜り、誠にありがとうございます。会報「みなみたま」第16号の発行にあたり、一言、御挨拶申し上げます。

令和6年度も、おかげをもちまして、学習活動や学校行事、部活動等、様々な教育活動を順調に実施することができました。

本校の最大の行事である南魂祭（体育祭・合唱祭・文化祭）につきましては、各実行委員会の生徒が主体的に企画・運営にあたり、各行事を成功に導きました。特に文化祭には、「あかね屋」も出店していただき、昨年度より40%以上増の約7千名の皆様が御来場くださいました。その中でも、特に小学生がとても楽しそうな表情で校内を回っていたのが印象的でした。本校の生徒にとっても、来場者の表情や反応を身近に感じながら発表でき、

大きな達成感や充実感を得たことと思います。

また、夏のオーストラリア研修旅行についても、4年生が150名規模で渡航し、かけがえのない体験や思い出を創ることができました。なお、国際交流については、イタリアやベトナムの高校生とのオンライン交流を継続して実施しております。このうちイタリアのデララッカ高校とは、姉妹校協定を結び、対面での交流を含め一層充実した交流をめざしていきます。

さらに、1月のマラソン大会では、生徒たちが最後まであきらめず自分の力を出し切る姿がみられました。また、3月の探究活動の成果発表会では、生徒の日頃の努力や学習の成果を遺憾なく発揮することができました。

このような学校生活を通して、生徒たちは、何にでも一生懸命に取り組むことの尊さや、皆で協力して物事を成し遂げることの素晴らしさなど、今後の人生を歩む上においても大切なことを学んでいます。あかね会の皆様には、引き続きこのような本校の教育活動をお支えくださいますようお願い申し上げます。御挨拶といたします。

令和6年度の取組

南多摩中等教育学校 後期課程副校長 桂 優子

あかね会の皆様、日頃より多大なる御支援・御協力をいただきありがとうございます。令和6年度も、探究活動を柱とし、特色ある教育活動を推進して参りました。今後も本校の取組について御理解いただき、更なる発展に向けて、あかね会の皆様の御支援をいただければ幸いです。

1 母校支援をいただいた取組

(1) 部活動支援

毎年、関東大会以上に出場を果たした部活動等に対し、御支援をいただいています。令和6年度は、次の部活動に御支援いただきました。

太鼓部

- ・成田太鼓祭・全国高等学校総合文化祭
- ・第14回関東地区高等学校和太鼓選手権

南多摩フィルハーモニー部

- ・全国大会

後期科学部

- ・全国高等学校総合文化祭

後期女子硬式テニス

- ・関東公立大会

後期水泳部

- ・関東大会・全国大会

後期陸上競技部

- ・関東大会

前期陸上競技部

- ・関東大会・全国大会

かるた同好会

- ・全国高等学校総合文化祭

令和7年度については、現在までのところ、太鼓部が、香川県で行われる全国高等学校総合文化祭への出場を決めています。引き続き、応援をよろしくお願いします。

また、令和6年度は、部活動の夏季合宿を再開しました。それに伴い、コーチ補助費を次の部活動に御支援いただきました。

- ・太鼓部
- ・後期男子バスケットボール部

(2) 進学指導支援

PTAおやじの会の御協力を得て、夏季休業中の学校閉庁日に、クリエイトホールの会議室等を活用し、後期生対象自主学習スペース「Study Room」を開設していただいています。令和6年度は、3日間でのべ19名の利用がありました。費用の御支援ありがとうございました。

(3) 学校行事支援

「南魂祭」の一つである「合唱祭」の審査員をお願いした審査員の方への昼食と卒業生に交通費の支援をいただきました。また、1月に国営昭和記念公園で実施されたマラソン大会のサポートランナー等をしてくださった卒業生等の入園料と交通費を御支援いただきました。

(4) 卒業証書等フォルダー

10期生及び13期生に御寄贈いただきました。また、修了証書フォルダーは、証書のサイズに合わせてリニューアルをしていただきました。

(5) 熱中症対策費

1月の報道で、気象庁より令和6年の平均気温は平年に比べ1.48度高く、明治31年の統計開始以降、観測史上最も暑い年になったと発表されました。

都立学校におきましても、「熱中症特別警戒情報（熱中症特別警戒アラート）」が新設されたことに伴い、「夏季休業中の部活動の適切な運営及び部活動等（体育活動を含む）における熱中症事故の未然防止の徹底について（通知）」等が発出されました。それを受けて、本校でもWBGT値を指標とした生徒の活動の中止等を決定する規準を策定しました。そのために必要なWBGT計測器や行事時の熱中症対策用飲料等を御支援いただきました。

2 学校行事

(1) 宿泊行事・校外学習

令和6年度は、宿泊行事を1学年と4学年に予定していましたが、1年生は諸事情により急遽の中止を余儀なくされました。4年生は、例年の行程とほぼ同じくして、豪州（シドニー）への海外研修旅行実施することができました。

校外学習は、1年生から6年生までの6学年が4月等に実施しました。

前号の会報でお伝えしたとおり、研修旅行費等の高騰等が課題となっており、今後の本校における宿泊研修旅行等について、1年半をかけて検討を重ね、令和7年度入学生からは以下のように実施することを決定しました。

宿泊研修旅行の実施学年は1・2学年及び4学年とし、前期課程は国内、後期課程では海外とします。1年生は、フィールドワークのテーマである地域探究に関連し高尾・多摩・八王子地域で行います。2

年生は、同じくフィールドワークのテーマである「モノ語り」に関連し、関西地域において、伝統工芸品の製作体験等を通して望ましい勤労観・職業観を育む学びを行います。4年生は、海外でのホームステイ等を通して英語を使う体験及び外国や異文化に関する理解を深めます。その他の学年（6学年は任意）は、校外学習を行います。



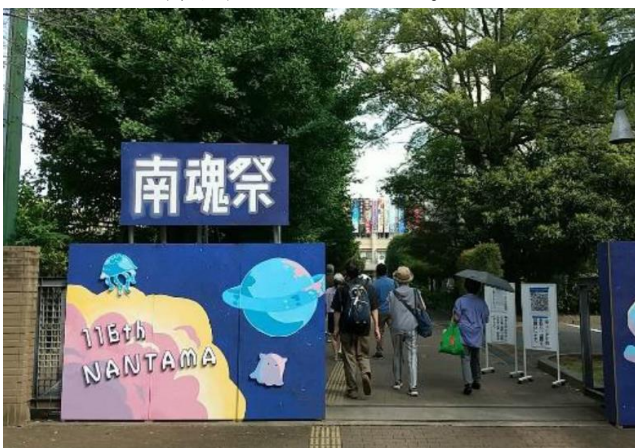
シドニー

(2) 南魂祭

5月の体育祭は、富士森公園陸上競技場において、実施しました。会場の収容人数による制限はありましたが、保護者の皆様にも御観覧いただくことができました。

6月の合唱祭は、J：COMホールで開催しました。昨年度は、学級閉鎖により不参加となってしまったクラスがありましたが、令和6年度は、完全開催ができました。

9月の文化祭は、前年の40パーセント増となるたくさんの方に御来場いただきました。



文化祭

コロナ禍で中断していた「あかね屋」を復活することができ、9期生が中心となり計画・運営し、大盛況でした。在校生を含め、多くの方に同窓会を知っていただく機会にもなりました。

(3) 八王子市との取組

2月生涯学習センターにて、八王子市主催令和6

年度「高校生によるまちづくり提案発表会」が開催され、本校の3・4・5年生18名が参加しました。

3 探究活動を支える指定校事業及び助成

本校の特色ある教育活動の実現には、あかね会の母校支援や様々な指定事業等の助成が欠かせません。令和6年度は、次の指定事業等にお力添えいただきました。

(1) 東京都教育委員会指定事業

① Global Education Network20 (GE-NET20)

引き続き、イタリアデラッラカ高校との協働研究「Passoプロジェクト」、ベトナムチューバンアン高校との国際交流プログラム、台湾建城国民中学とのオンラインセッションなど、オンラインを活用したグローバルな学びの場を提供することができました。

また、この度、イタリアデラッラカ高校と姉妹校協定を結び、今後は、対面での交流を含め一層充実した交流をめざしていきます。

② 探究的な学び推進事業

「総合的な探究の時間」を中心とした探究的な学びにおいて、個に応じたきめ細やかな指導の充実を図る本事業の指定を受け、外部人材を活用した指導体制を確立し、充実した探究活動を実施することができました。

③ Sport-Science Promotion Club

引き続き、薙刀部が指定を受け、生徒の健全育成、競技力の向上、競技種目の普及・育成、地域貢献に取り組みました。

(2) 文部科学省指定事業

高等学校DX加速化推進事業 (DXハイスクール)

令和6年度、新たに指定をいただきました。本事業は情報、数学等の教育を重視するカリキュラムを実施するとともに、ICTを活用した文理横断的な探究的な学びを強化する学校などに対して、そうした取組に必要な環境整備の経費を支援してくださるもので、本校では、探究活動に用いる物品や冊子などの成果物の作成に役立てるため高速カラープリンターオルフィス (ORPHIS) を整備しました。

(3) 三菱みらい財団

今年度も、本校の特色の一つである探究活動の充実に資する多大なる経費の支援をいただきました。

南多摩中等教育学校では、生徒たちにとって豊かな学びが実現できるよう取組んでおります。あかね会の皆様におかれましては、今後とも南多摩中等教育学校への御支援、御協力をいただきたく存じます。教職員一同、あかね会の益々の御発展をお祈りしております。

南多摩中等教育学校卒業生の進路

南多摩中等教育学校 進路部主任 小出 千亜希

今年卒業の10期生は、前期課程での新型コロナウイルス感染症による臨時休校やオンライン授業、3大行事・部活動の制限という困難な状況を乗り越え、後期課程を活動的に過ごしてきました。大学入学共通テストは全員が出願し、無事に受験することができました。その後の個別入試で、国公立大学の後期日程までに56名が合格し、国公立の現役合格率は40.1%となりました。特に難関国公立大学では東京大学4名、京都大学3名、一橋大学3名、東京科学大学(理工学系)3名、公立大医学部1名が合格となり、

14名の生徒が難関国公立大学への進学を果たしています。後期日程(3月12日)まで粘って受験した生徒も多く、16名もの生徒が中・後期日程の合格を勝ち取りました。LWPや学校内外の様々な活動を生かして、総合型選抜・学校推薦型選抜で合格した生徒もいます。東北大学A0Ⅲ期、東京科学大学女子枠、東京都立大学グローバル人材育成入試など、特徴的な入試方式が多くみられます。

私立大学では早慶上智、理科大やGMARCHに多くの生徒が合格し、良好な結果を残しました。

10期生(2025年卒)合格実績(2025年3月24日現在)

1 国公立大学(現役のみ)

国公立大学	合格者数
東北大学	2
信州大学	1
山梨大学	1
筑波大学	3
千葉大学	3
電気通信大学	4
東京大学	4
東京外国語大学	1
東京科学大学(理工学系)	3
東京農工大学	3
東京学芸大学	4
東京藝術大学	1
一橋大学	3
横浜国立大学	7
大阪大学	1
京都大学	3
名古屋大学	1
九州大学	1
琉球大学	1
東京都立大学	6
福井県立大学	1
福島県立医科大学	1
諏訪東京理科大	1
国立看護大学校	1
計	57

上記のうち医学部医学科

福島県立医科大学	1
----------	---

上記のうち獣医学部獣医学科

東京農工大学	1
--------	---

注) 10期生(現役のみ 卒業生142名)

合格者数: 複数大学の合格者は重複計上

※私立大学総計は、掲載大学以外の合格者を含む

2 私立大学(現役のみ)

私立大学	合格者数
早稲田大学	23
慶應義塾大学	16
上智大学	16
東京理科大学	38
明治大学	41
青山学院大学	16
立教大学	16
中央大学	16
法政大学	32
成城大学	5
成蹊大学	8
明治学院大学	8
武蔵大学	10
芝浦工業大学	13
日本大学	20
東洋大学	19
駒澤大学	1
専修大学	8
津田塾大学	3
東京女子大学	1
日本女子大学	1
日本獣医生命科学大学	4
東京農業大学	16
工学院大学	16
東京都市大学	14
東海大学	6
東京薬科大学	5
北里大	3
私立大学総計※	432

3 短大・海外大学・専門学校(現役のみ)

短大・海外大学・専門学校	合格者数
東京eco動物海洋専門学校	1
Trinity University(トリニティ大学)	1
ASU(アリゾナ州立大)	1
UT Austin(テキサス大学オースティン校)	1
UCSD(カリフォルニア大学サンディエゴ校)	1
Lake Forest College(レイクフォレスト大)	1
University of Arizona(アリゾナ大)	1
計	7

新入会員紹介

南多摩での6年間

令和7年卒(中等10期生) 山上 友梨紗

「南多摩での6年間の思い出を振り返ってください」と聞かれ何を思い浮かべるだろう。勿論「良いことも悪いこともあった中身の詰まった六年間だった。」が、大きな思い残しがある。

私は昔からかなりの省エネ人間だった。物事を中心から少し離れて参加し、何かに夢中になるのは極めて稀なタイプだった。「一生懸命な人は楽しそうで、同年代ながら尊敬してしまう、失敗するくらいなら必要以上のことは何もせずやり過ぎたい、波風立てないように、他の人の意思や期待に同調すればよい」と思っていた。それでもこの学校には「やってみる」側の仲間が多く、勉強、部活、その他イベントなど、その環境も整っていた。しかし、時が進むにつれ段々激しくなっていく、自分が本当にやりたいと思っているわけではないやるべきことをする日々疑問が溜まっていった。ふとそれは、爆発して、この生き方は損だと悟った。そこで、やってみようと思ったことはやってみたり、以前より少し積極的に周りの人に参加したりするようになった。すると、未知の苦労もあったがその分手ごたえのある経験だった。六年生の時の南魂祭は格別で、それぞれの能力を發揮する

南多摩生、直前になるほど本気になっていき、太陽が沈み切るまで練習、作業し、本番には最高の状態になっているという現象には感動すら覚えた。特に合唱祭は、クラスの個性と協調性が共存し、みんなのさらに高い完成度を追求する性質が生かされて、総合優勝することができて数年に一度レベルに嬉しかった。だから今は挑戦すること、本気になることを避けてきた今までを後悔している。まだ人生の序盤なのでこれから取り返すつもりだ。

少し離れて見ていたからこそ私たちの学校生活の裏には学校内、学校外を問わず誰かの負担や、厚意があるとわかった。だからこそ一緒に過ごした友達や先輩や後輩、挑戦したいときに手伝い、辛いときに寄り添ってくださった先生方、家族や、様々な場面で支えて下さったあかね会や保護者の方々に心から感謝している。卒業後はこれまでしてもらったことを、倍以上にして返していきたい。

最後に、10期生の良いところは、心が温かく、お互いを受け入れて、支えあって、みんなで一つのことを創り上げる力があるところだと思う。この学校で、学年で過ごせて本当に最高だった。

令和7年卒(中等10期生) 黒田 さくら

私の南多摩での6年間は、様々なことに「挑戦」し、それによる「出会い」に溢れていました。

まず、南多摩中等教育学校を受検したことは、私の人生において大きな挑戦でした。人見知りをする私にとって、小学校で築いたコミュニティから離れ、新たな環境に飛び込む決断をすることは簡単なことではありませんでした。しかし、入学後、自分から輪に入れない私に声をかけてくれた同級生や困ったことがあると相談に乗ってくださった先生方、南多摩のことをたくさん教えてくださった先輩方のおかげで南多摩での生活に馴染んでいくことができました。

6年間を通して特に印象に残っていることは、2つあります。

1つ目は、3年生の時に都立中高一貫校スピーチコンテストに参加したことです。新型コロナウイルスの蔓延による生活の制限も少しずつ緩和され、色んなことに挑戦してみたいと参加しましたが、英語で話すことに苦手意識があり、スピーチの暗記、発音、アイコンタクト、身振り手振りと課題はたくさんありました。しかし、練習を通じてそれまで授業以外で関わることのなかったJETの先生と親しくなれたこと、本番で先生方に「今までで1番よかった」と言ってもらえるスピーチができたという成功体験などはかけがえのない経験となりました。

それからどんなに大きな課題に直面しても「やってみたらなんとかなる」とポジティブに捉えられるようになりました。

2つ目は、後期生徒会執行部に所属したことです。

特に私が生徒会長として活動した1年間は、素晴らしい仲間と共に過ごし、多くの学びを得た濃密な時間でした。私が生徒会長としてできたことはごく僅かですが少しでもこの学校の成長につながっていたら嬉しいです。また、来年度からは入試の男女枠が撤廃されるなど多くの変化があると思います。後輩には、南多摩の伝統を大事にしながらも、時代の変化にあった南多摩の在り方を考え、南多摩中等教育学校をよりよい学校にしていってほしいです。

嬉しいことにも辛いことにもよく泣き、たくさん笑った6年間でした。それほど真剣に南多摩での生活に向き合っていたということだと思います。そうして得た経験を胸に新たなステージでも精進していきます。また、これからも南多摩で過ごしていく後輩たちが何事にも真剣に向き合い、悔いのない生活が送れるように私もあかね会の一員として見守っていきたいです。

最後に、私が充実した6年間で過ごすことができたのは、同級生、先輩、後輩、先生方、OB・OGの皆様のおかげです。本当にありがとうございました。

文化祭参加

令和6年「あかね屋」活動報告

令和6年卒 前田 崇志 川上 なつき

令和6年9月7日～8日に開催された母校文化祭「南魂祭」において、9期卒業生有志が「あかね屋」を出店いたしました。企画・運営の中心を担ったのは9期生の元HR委員ですが、あかね会のご支援や、多くの卒業生が有志として集まってくれたおかげで、大成功を収めることができました。



あかね屋はランチルームと虹の架け橋の下の2か所に出店し、お弁当やおにぎり、飲み物を販売しました。中等4年生の飲食販売がデザート系のお店を出すクラスが多かったため、「あかね屋」ではおかずをメインに提供しました。虹の架け橋下にはテントを設営し、飲み物のみの販売を行いました。



写真は当日の様子を収めたものですが、自分たちでデザインした布看板やメニュー表を掲示するなど、入念な準備が功を奏し、本格的なお店らしい雰囲気を出すことができました。

お弁当やおにぎりは在学生や教職員の方々に加え、生徒の保護者、小学生など幅広い層の方々にご購入いただき、全商品が完売いたしました。特に、おにぎりは6種類用意しましたが、2日間とも昼頃には完売となるほどの人気ぶりでした。

お弁当も大好評で、1日目は「ごきげんランチ」店から、2日目は「アツアツ弁当ミサワ」店からそれぞれ3種類ずつを仕入れ、多くの方にご購入いただきました。

筆者も、2日目に豚焼肉丼をいただきましたが、とても美味しかったです。

両日も高温で蒸し暑い天気だったため、ドリンクの売れ行きも好調でした。お茶やスポーツドリンク、ジュースなどを取り揃えましたが、予想を上回る売り上げとなり、無事にすべての商品を完売することができました。

さらに、1日目の夕方には文化祭終了後に行われる中夜祭のために、体育館棟2階で飲み物の出張販売を行いました。在校生が存分に中夜祭を楽しむためのサポートになったのではないかと思います。



文化祭当日に向けて、「あかね屋」の中心メンバーは4か月前から何度も会議を重ねて準備を進めてきました。コロナ禍で「あかね屋」として出店するのは久しぶりだったため、どのような商品がどれくらい売れるのか手探りの中での準備でした。結果、大きな問題なく無事に終わることができ、ほっとしています。

仕入れや販売方法について数々のアドバイスをくださった購買の狩野さん、また学校との連絡調整をいただいた桂副校長先生、佐藤先生、荒木田先生、小林先生には、この場を借りて感謝を申し上げます。

今回の運営では上手くいかなかった部分も多くありますが、しっかりと振り返りを行い、次年度に活かせるよう改善点を洗い出しました。この経験を基に、今後の文化祭においても「あかね屋」がさらに盛況となることを願っています。

最後に、「あかね屋」の運営に様々な場面でご支援していただいたあかね会の皆様と先生方に、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

そして、暑い中有志として参加してくれた9期生みんな、本当にありがとうございました。



卒業生訪問

大森康雄さんにインタビュー

平成5年卒 入沢 修自

令和7年1月12日に約1時間、ウェブ会議の方法で北海道広尾町在住の大森康雄さん(S47卒)から、①高校時代のこと、②高校卒業後のこと、③現在の仕事について、④在校生に向けて、の4点についてお話を伺いました。



入沢 本日は宜しく
お願いします。

大森 自分なりに南
高生の頃、感じて
いたことから話さ
せていただきます。
私は府中市四谷の
はずれ育ちです。

入沢 私のところは
聖蹟桜ヶ丘でして

府中四谷橋などあります。多摩川の対岸ですね。

大森 田んぼばかりの農村で、家は数軒しかありませんでした。また通っていた中学校では、男子学生同士のいがみ合いと言いますか、小競り合いが多くて、荒れていたんですね。南多摩高校に行ったときは、すごく落ち着いた雰囲気、ああこういう静かな雰囲気で部活とか勉強ができるのは、すごく素晴らしいことだと思ったのが第一印象です。

入沢 何か部活などはされていましたか。

大森 私は柔道部に入ったのですが、その頃は体力もなく、強くもなくて勝つことができなかった。勉強と両立できないということも気になりました。たしか1年生の途中でやめちゃったと思います。

成績が悪くこれじゃまずいと思い、机に向かって勉強するようになりました。2年生の中頃になりみんなに追いついて、競争できるくらいの成績がとれるようになりました。南高では予習復習の大事さを教えてもらいました。このことはカナダに行くととても役に立ちました。どうでしょう話が前後しますが。

入沢 お気になさらずに続けてお話してください。

大森 そうしましたら卒業後の話をしますと、卒業後に東洋大学の文学部英米文学科に進みました。外国に対する憧れがあったんですね。いつか行ってみたい、英語がしゃべりたいという思いでした。ところが、その頃はまだまだ学生運動が盛んで、授業が休講になったり、試験ができなくてレポート提出になったりしました。その事がきっかけで大学に通う意味を見出せなくなり、前々からの外国を見てみたいという思いがより募って、大学を休学し父親のつてを頼り、カナダのア

ルバータ州、ロッキー山脈を超えた東側にある州なんですけれども、牧場で実習させてもらうことになりました。東洋大学は3年生の7月までになります。

入沢 外国への憧れということと牧場とはどのように関係するのでしょうか？

大森 父親が現在私達が住んでいる北海道の土地をたしか私が高校2年生のときに買ったんですね。

入沢 買っちゃったんですね。

大森 そして最初の頃は一番上の兄が行ったり来たりしながら管理していたんですが、やがては自分に任せられるかもしれない、牧場の勉強もしなければと思うようになりました。

入沢 牧場と海外ということが結びつくわけですね。

大森 牧場の形態としては、乳を搾る酪農や肉用牛の雌牛を飼って生まれた子牛を売るというスタイルなどがあって、父親が考えていたのは後者でした。

入沢 お父様はもともと北海道のご出身ですか。

大森 生まれは静岡です。第2次世界大戦直後の農地開放により、府中市四谷の土地を譲り受けました。そこでいろんな農作物を作りました。そのうちに養鶏を始めましたが、それが順調にいった千葉県の方にも養鶏場を持ちました。鳥を飼っていると悪臭による公害が問題ですね。四谷の田舎にもだんだん住宅が増えてきて、養鶏がしづらくなってきた。それで養鶏を縮小し、土地を一部売ることになります。

入沢 そうしますと四谷の農地も広がったんですね。

大森 いろんなことをやりました。うちの兄が養鶏の将来について、卵だけでは経営が難しくなると考え、グラウンドカバープランツ（地被植物）に目を付けました。街路樹の下には下草が必要で、その生産をする仕事を始めます。笹類や芝桜などです。やがて四谷での養鶏はやめました。最終的には千葉でも養鶏をやめてすべて地被植物の生産に切り替えました。

入沢 カナダでは牧場の勉強されたのでしたね。

大森 実習先は肉用牛と酪農の二部門あって、どちらも実習しました。自分としてみると1年半の実習では不足で、もう少し農業について専門的に学びたいの思いから、州南部にあるレスブリッジ市立のカレッジに進んで、2年間農業を勉強しました。

この2年間は農学全般にわたるものでしたから、もう少し畜産に特化した勉強もしたいということで、カルガリー市の北にあるオールズという街の農業専門の州立カレッジの畜産学部に編入させてもらいました。そこでの授業はレベルが高く、特に畜産の専門用語は

難しく、とにかく机に向かって覚えるしかなくて大変でしたが、なんとかかんと卒業しました。

しかし卒業したのはカレッジですから、当時はディプロマ(卒業証明)しかとれなかったんですね。バチエラー(学士)はとれない(現在では両校とも学士課程があります)。私の場合、ブリティッシュコロンビア大学やアルバータ大学に移る方法もあったのですが、カレッジの単位は1年分しか認めてくれませんでした。アメリカのモンタナ州立大学やオレゴン州立大学だと2年分そのまま認めてくれるのでそこに編入することも考えました。東洋大学の単位もあったのですが一切認めてもらえない。そのようにさらに進学を考え悩んだ時期もありましたが、オールズカレッジを卒業した時点でカナダ滞在が3年8ヶ月、これ以上親に経済的な迷惑をかけては申し訳ないという気持ちと、そろそろ牧場の方にも力をいれたいという兄の思いもあり、帰国する決心をしました。それが昭和53年です。昭和54年の11月には家内と結婚して本格的な牧場経営のスタートとなりました。家内も南校の卒業生です。

入沢 南多摩在校中から誓い合った仲だったのでしょうか。

大森 家内とは大学時代に一度くらい会ったかどうか、どこでお付き合いが始まったのか。自分がカナダに行ってから何度か連絡を取ったかもしれません。カナダから一時帰国した時には、会って自分の夢なんか話したり、それから文通をしたり。

入沢 文通する関係があったということはクラスが一緒だったとか。

大森 3年次に一緒でした。

大森 それで北海道では、牧場の経営ということで牛や綿羊を飼ったりしました。面積が40ヘクタールありますので畑作もしました。小豆、ビート、小麦とか。しかし、カナダと日本では気候や飼育、管理方法に違いがあり、うまく経営できなかつた。そのことを兄に相談したところ、地被植物を生産してはと進められました。生産したものは兄が買ってくれたので経営は落ち着きました。しかし生産したものはすべて本州に行ってしまう、どう使われているのか全く分かりません。北海道で使える地被植物はないのか。そんな思いで植物を探し始めたのが宿根草との出会いでした。当時園芸店では宿根草は多年草と言われていて、大きな園芸店でも20種類ほどしかありませんでした。

アメリカやカナダには、ナーセリーショーという苗の生産者による見本市あるのですが、行ってみると色々な種類の宿根草がある。また生産者も広い面積で生産している。これは日本でやってみたくて思いました。そして苗の直輸入を始めました。その際、気候の違いを考えながら輸入する必要があるのですが、そんな時にカレッジで学んだことが大変役に立ちました。ハーディネスゾーンマップ(Hardiness zone map)と

呼ばれる、地域の平均最低気温を示したマップがあり、それを参考に寒さの厳しい北海道に向くかどうかを確認しながら草花を仕入れることが出来ました。また種で輸入するか苗で輸入するかという問題もあります。苗の場合、土付きで輸入できないので、根を洗うなどの工夫をしなければなりません。そういう先方とのやり取りは全て自分でやりましたが、さすがに検疫は専門業者に依頼せねばなりませんでした。

入沢 例えばラベンダーなどはどうなのでしょう。

大森 ラベンダーは地中海性気候に向く植物なのであまり寒さに強くはないのです。富良野は-15℃から-20℃まで下がると思いますが。ただあそこは雪が早いです。雪が布団代わりになって地面の温度が下がらなくなる。夏は内陸性気候で気温も上がるのでラベンダーには向いていたわけです。十勝はどうかというと、雪が遅く積雪がないまま-20℃、-30℃となることもありラベンダーには不向きです。でもそういう環境で育つ宿根草も沢山あります。もし外での環境に合わない植物であれば、室内で育てたり、保護をする等の対策はありますが。

入沢 例えば曼珠沙華は9月のお彼岸頃に誰が管理しているわけでもなく咲きますが、プランターで育てることも可能なのでしょうか。

大森 曼珠沙華については調べてみないとわかりませんが、条件さえそろえば咲かせることはできると思います。まずは試してみることです。よくガーデンを作る意味を聞かれることがあります。新しく入れた宿根草は実際に植え、その成長を観察し、丈夫に育つことを確認して販売する。その試験の場でもあるというのが私の考え方です。もちろん、大森ガーデンでは様々な花を見て楽しんだり、色々な花が織りなす様を見ていただけるよう、家内が植栽のデザインを工夫しています。ガーデンを訪れるお客様も増え、本州からも来ていただいています。



現在、約1400品種生産していますが、ホームページでは、花の写真、名前、学名、特徴など見られるようになっていて、学名も世界で通用するアルファベッ

ト表記にしています。しかし宿根草を生産し始めの頃は全然売れませんでした。当時はまだ知られていない花も多くあり当然ですね。カタログやホームページで次第に評価されるようになり、英国のダン・ピアソンというガーデンデザイナーの目に留まりました。彼は「十勝千年の森」という400ヘクタールの敷地にガーデンを作る。そこに植える花を探しているということで依頼が来ました。故ダイアナ王妃のメモリアルガーデンをデザインした方です。うちの場合、花がすべて学名表記されているという事で信頼をされ、使う宿根草すべてを大森に任せると言っていただき80品種、35,000株を使っていたいただきました。また、倉本聰氏脚本のテレビドラマ「風のガーデン」の舞台となったガーデンの草花もすべて大森ガーデンで育てられたもので、そのことで知名度が上がり、ガーデニングブームもあり、ようやく売れるようになりました。

入沢 時代が来たのですね。最後に在校生に向けてメッセージなどありましたらお願いします。

大森 目標は高く持つこと。努力はする。簡単に諦めない。目標っていうのは夢でもいい。私は苦しい時も、夢はなくしたくない、北海道に来たのだからここで出来る何かをしたいといつも考えていました。宿根草の生産をするならこれを広め、また他社に負けない品種を揃えるという気概でやってきました。くじけそうになったときは、自分と自分のやっていることを信じる。「必ず人の役に立つ」と思うと、自分の励みになると思います。

また矛盾するようですが、どうしても無理だと思った時は、目標を変えても良いと思います。そしてそれまで努力してきたことは、次の目標に向かう時、必ずどこかで役に立つはずで。

会員だより

乾徳山の鎖

昭和38年卒 木崎 勇

我が家には3人（1人は故人）の南多摩卒業生がいます。母タミは昭和2年に府立第四高女卒業、妻の明子（旧姓伊藤）は昭和43年卒業、そして私は昭和38年の卒業です。

母から、子供の頃に日本の歴史や文化のことをよく聞かされました。私は南高時代、クラブ活動は写真部と柔道部に所属し、顧問の近藤先生、諸先輩方から厳しい指導を受けた思い出が忘れられません。

金融関係を退職後は太極拳（師範）、そして青梅マラソンを走り、妻は3回、私は7回完走しました。

最近、花や風景の写真を撮り、そして個々の写真に短歌を詠んだりしています。南高時代に写真部にいたこと、また短歌は子供の頃から百人一首に関わり、母や義母から影響を受けて始めました。

写真や短歌を自宅に飾っていると、近くの信用金庫から「店頭ロビーに展示させてほしい」と依頼がありました。今年で3年目ですが、展示した写真（四つ切ワイド）は30枚、短歌も30首となり、昨年10月に信用金庫から感謝状を戴き、地元新聞にも載りました。

八王子の小・中学校を卒業した私は南多摩へ進学し、中学時代の仲の良かった友人は都立第二商業へと進みました。その第二商業には良く遊びに行き、その警備員の方と仲良くなり、社会人となってからも付き合いが続きました。

ある日、その警備員の方から山登りの誘いがあり、一

緒に行くことになりました。登る山は乾徳山という山梨の山で、標高が2031m、途中鎖場もあって、所要時間は2時間くらいかかることでした。

また、その登山には3人の女性が同行するとの話で、何故か心がワクワクした記憶が残っています。

途中小雨に見舞われ、鎖場には手こずりましたが何とか通過でき、無事に下山することができました。ちなみに、3人の女性のうちの一人が現在の妻です。

結婚して今年で56年になります。名前のおりいつも明るく優しい反面、芯がしっかりしていて、私は随分助けられました。正に私には過ぎたる女房です。そんな妻が、一昨年9月体調を崩し現在も入院中です。私があるのも妻のお陰であり、体力、気力の続く限り精一杯支えていく所存です。

願わくば すぐに咲かせて 春風さん
妻と楽しむ 傘寿のさくら (いさむ)



青梅マラソン 完走できてホット一息

ノーベル平和賞を受けた東京の被爆者を支えて

昭和44年卒 村田 未知子

2024年のノーベル平和賞を日本被団協が受賞した。私は日本被団協の大黒柱と言われる東京被団協（東友会）に勤務して43年を迎える。東京都の業務委託を受ける被爆者相談所の主任相談員、事務局長として働き、74歳となった現在もフル勤務である。仲間の4名の相談員とともに、年間1万件を超える被爆者や家族からの相談に対応している。最近では被爆者の子どもたちからの相談が増え、全体の40%程度となっている。



2024.12.10 オスロの受賞式に参加した被爆者と支援の人びと

昨年10月11日、ノルウェー・ノーベル委員会が、日本被団協がノーベル平和賞を授賞する理由として挙げたなかで、私は以下の一節に注目したい。

「ノーベル平和賞を日本被団協に贈るにあたってノルウェー・ノーベル委員会は、生存者たちが、肉体的苦痛や辛い記憶にもかかわらず、大きな犠牲を払った経験を生かして平和への希望と関与を育むことを選んだことをたたえたい」。

これは、受賞者は団体だけが受賞したのではなく、核兵器廃絶を求めて訴え続けてきた日本被団協に参加した原爆被爆者に贈られたものと確信できる。しかし、本来受賞すべき人びと、被爆体験を語ってきた原爆被爆者の大半が亡くなっている。

40年前、相談事業の集まりのなかで、「家の下敷きになって生きたまま焼かれていく母を見捨てて逃げた」「大やけどをした姉に水をあげなかったことを母は死ぬまで苦しんでいた」「腫れ物に気づきがんになったと何か月も悩んだ」「被爆者だと知られ子どもの縁談が破談になった」「風邪で仕事を休むと『被爆者だって』と陰

口をたたかれた」「昔、近所にジャガイモを配ると放射能が付いていると捨てられた」などなど。被爆者と一緒に何度涙したことだろう。



田中熙巳・日本被団協代表委員の受賞講演

そんな被爆者たちが、「あんなことは誰にも味合わせたくない」と立ち上がり、核兵器をなくしてほしいと、多くの人びとと手を取り合って運動を続けてきたことが、世界に認められたのだ。私は発表のあった夜、一人で杯を上げながら、亡くなっていった何人もの顔を声を思い出した。「こんな私の話でも、平和のために役に立つようだ」と、意を決して人前で被爆当時のこと、その後の狂わされた人生と病気との闘いを始めて証言した被爆者の声だ。ノーベル委員会は、このような被爆者の生き様を世界に知らせた。

92歳の田中熙巳^{てるみ}・日本被団協代表委員は授賞式のメッセージの最後に、こう訴えた。

「世界中のみなさん、『核兵器禁止条約』のさらなる普遍化と核兵器廃絶の国際条約の策定を目指し、核兵器の非人道性を感性で受け止めることのできるような、原爆体験者の証言の場を各国で開いてください」と。

一人でも多くの方が、核兵器や戦争について関心を持ち、核兵器被害の実態を知ってほしい。被爆者平均年齢は85歳を超えている。私たちは、被爆者と同じ時間を生き、同じ言語を話し、同じ文化を共有している。核兵器の被害から人類と地球を守る私たちの使命は重いと感じている。被爆者の声を聞ける時間の限界が近づいている今こそ、被爆者の伴走者として、強く訴えたい。

バスケットの名手、画伯に変身

昭和44年卒 井上 務

美術に詳しい若者に「同期生の作品が展示されるので東京都美術館に行ってきます」と話すと「トビですか、すごいですネ!」との返事。私は「今、東京都美術館はトビですか?」と聞き返してしまいました。この話しを20代女子にすると「モンペって知っています?」と。「アナタこそモンペを知っているの?」と訊くと「若者の省略語でモンペは“モンスターペアレント”のことです」と。「なるほどネ」と思いつつビックリ。



さて「トビ」で行われていた展覧会は「日本画院展」。展覧会のルーツは明治31年結成の日本画会に遡ると出品目録にありました。我が母校の歴史と重なる120年、日本画のみの公募美術団体として歩んできた権威ある展覧会であることを知りました。その権威ある展覧会で昨年に続き2024年もその一角を占めていたのが同期の藤崎君です。彼の高校時代は何とんでもバスケットの藤崎君でした。ところがしばらく前からいろいろな展覧会に入選・入賞されていることを知りました。そして、この目でその素晴らしい作品に触れ「彼は一体いつから“画伯”へと転身したのか?」と興味津々でした。そのあたりも含めた原稿を「あかね会 会報」に寄せて頂こうと「トビ」でお願いいたしました。

そして、作品の前で写真を1枚。さらに、彼が教員時代に面倒をみた教え子のお母様が花束を持参されたもの

の「場内に生花は持ち込めないとのことで会場入り口に置いてきました」とお話しされていたことを耳にした私は「そのありがたい心こもるお花を胸に抱いた写真を撮ろう」と提案し1枚。若者の使う省略型「モンペ」とは無縁だったのであろう彼の教員時代を想像しました。



ところで、バスケットコートのゴール近くには小さな長方形のエリアがあります。名付けて「ペイントエリア」。バスケットの名手はその現役時代に何度もこの「ペイントエリア」に足を踏み込んでいたはず、フム!?昔から「ペイント」には深い縁があったのだ!

「トビ」にお邪魔した日は6月4日「虫の日」。ホタルという虫に関わっている私が「チャンスがあったらホタルでも…」の一言を発したところ「今年叶えたい夢のひとつにホタルを観る!」を掲げている孫がいる」と。福生ほたる祭りで藤崎氏のお孫さん7名を含むご親族14名様と実に楽しい「ホタルの勉強会と鑑賞会」が行われたことを付記ご報告いたします。

歴史ある母校に深く感謝です。

バスケットも、絵も、継続は力なり。

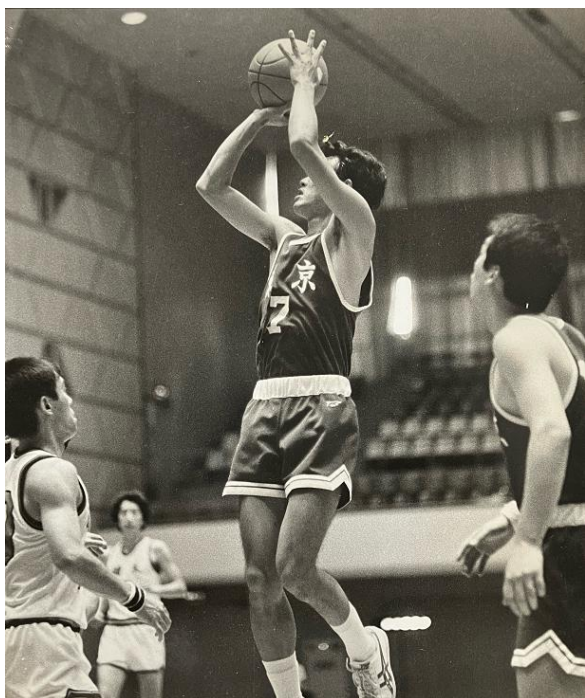
昭和44年卒 藤崎 隆司

小学生の頃は巨人の長嶋選手に憧れて、放課後はよく三角ベースで近所の仲間と遊んでいました。将来は漠然と野球選手を夢見ていました。しかし、小学校卒業と同時に親の都合で、小田原から青梅に引っ越したことで状況が一変しました。入部したのは科学部。望遠鏡を担いで日蝕観測をしたり、ラジオの気象概況を聞いて天気図を作るなど、これが予想外に面白く、今でも天気図を見るとワクワクします。中一の学年末に開催された球技大

会でバスケットに出場したことが転機になったのです。決勝戦での活躍により、バスケット部員から強く勧誘され、入部を決意。ここからバスケットボールを追いかける人生が始まりました。

南高に入ると、よりバスケット漬けの高校生活となりました。バスケット部の同級生には青梅や五日市出身者が多く、よく八高線を通ったものです。3年生が抜けた後は1、2年生で6人という少人数でしたが、OBの方が大勢

練習に来てくれた事で、チームの実力が向上したことは確かです。



ナイスシュート！（教員時代）

大学生や社会人との練習参加は、当然体格や体力、技術も優れているので、何度も当たり負けしましたが、次第に逞しくなっていたのです。さらにゲームではOBの0氏がコーチとして指揮してくれたことは、本当に有難いことでした。お陰で勝率は7割を超えていたと思います。諸先輩方のご協力、ご支援に感謝です。

その夏の受験勉強は、それまでの勉強不足を自覚したので、気合を入れました。同じ青梅のチームメイトだったS君と一緒に、市の図書館で開館時間から終了まで、競うように猛勉強したのは懐かしい思い出です。恐らく、3年間の部活動で養われた集中力や持久力が、大いに役立ったのでしょう。

大学入学と同時に即バスケット部に入部。自ら目標を定めて、積極的に取り組んだ大学生活でした。その後は体育の教員として勤めながら、東京都教員チームに所属しました。代表として参加した国民体育大会や全日本教員選手権には15年以上出場しました。特に青森国体で全国優勝を達成した喜びは、忘れられない思い出となりました。現在はささやかながら、所沢の市民バスケットクラブでよい汗をかいています。

さて、絵はいつからかな、と考えると、幼少の頃、母親の描いた「鱈」（あじ）の絵がきっかけだったと思います。子供心にその印象は鮮やかに目に焼きつきました。その後もその色の美しさに憧れ、よく描いていました。

南高に入って、芸術は美術を選びました。美術は楽しいだけでなく、自由で開放的で、癒しの時間でした。しかし、校外での写生では羽を伸ばしすぎて完成が遅れ、よく0先生に叱られていました。ただ、最後のコメントで「構図がいいのに惜しいね。」と一言。その言葉かけ

が嬉しかったのをよく覚えています。40代中頃、勤めていた都立高校で美術の先生と同じ生活指導部になり、次第に親しくなりました。その先生の専門が日本画でした。

ある時、その先生の公開講座の開講を知り、そこに親しい先生仲間と参加したら楽しかったので、続きをお願いして日本画教室を開いてもらったのです。

初めの頃、難しかったのは、膠（にかわ）の濃度で、絵の完成直後に岩絵具がザラザラと流れ落ちてしまったのは、ショックでした。しかし、失敗のたびに先生が優しく教えてくれ、楽しい雰囲気ですべて学びました。

こんなことがありました。川の水を青色で描いていると、先生が「いつも水を描く時、決まって青色の絵の具を手取るね。」と。驚いて聞くと、先生曰く、「もっと対象をよく見て。異なる色が見えませんか。」と。

ジッと目を凝らして見ると、黄色や紫が見えたのです。こわごわ描き込むと、変ではないのです。むしろ、前より深みのある絵に変わり、驚きました。それまでの固定観念を見直し、対象を素直な目で、深く観察することの大切さを知った瞬間でした。

初期の頃、室内で花や果物などを描いていましたが、次第に青森の奥入瀬溪谷や屋久島、瀬戸内海などへスケッチ旅行に出かけ、さらにフランスやイタリアなどへ足を伸ばし、どんどん絵を描く時間を楽しむようになっていきました。

現在、日本画を始めて、四半世紀近くになります。お陰様で5回の教室展開催や最近では公募展に応募する楽しさも味わっています。「継続は力なり」という言葉を実感するこの頃です。ただ、大変惜しまれることに昨年、日本画の先生は闘病の末に亡くなりました。生前から、描き続けることが大切です、と話されていました。今年の日本画院展の入選作の題名を「夢のつづき」としました。描き続けることの大切さを説かれていた先生のお気持ちを汲み、それを題名に込めました。今後も健康に気を配りながら、仲間と一緒に、楽しく描いていけたら、と思っています。

「継続は力なり」は好きな言葉です。似た言い方に、英語で「Continuity is the father of success.」、「継続は成功の父」と訳されます。一方で「Mistake is the mother of success.」、「失敗は成功の母」。これは失敗しても反省し、欠点を改めてゆけば、かえって成功に近づく、という例えです。失敗も、続けることも成功の源になるわけです。今まで続けてきたバスケットと日本画制作を通して、心の支えとなる感慨深い言葉です。

終わりに、今回の機会を頂いた、井上務氏他関係者の皆様に感謝申し上げます。

有難うございました。

参照：「夢のつづき」の絵は、「日本画院」のホームページで検索することができます。

<https://nihonga-in.or.jp/post/member/192/>

南多摩高男子バスケット部「最長老OB会」の活動

バスケット部「最長老OB会」総務 昭和48年卒 春日 幸雄

令和6(2024)年5月25日、久しぶりに第6回OB会を開催しました。前は平成27(2015)年でしたので、9年振りの再開となりました。



以前は毎年恒例となっておりましたが、コロナ禍や会員の逝去等もあり、開催を控えていました。それまでもSNS等で繋がっていたのですが、今年に入り諸先輩方より、「会員の高齢化(平均年齢75歳)を考慮し、皆が元気なうちにOB会の再活動を」と声が掛かり、毎回お世話になっている八王子駅近くの「割烹むら山」さんに11名が参加して開かれました。

以前にあかね会ホームページの同窓会欄へ寄稿しましたので重複しますが、私達は現存する部活動OB会としては、恐らく最長老のグループではないでしょうか？会員メンバーは、キャプテンの久保仁美氏(昭和39年卒)を始め、最上級生の瀬沼俊男氏(昭和38年卒)、中高一貫初代元校長の小林幹彦氏(昭和45年卒)から最下級生の私(昭和48年卒)まで総勢約15名で活動中です。

卒業後の活動は、当時の三多摩大会や八王子市民大会等に南多摩高OB会として参加し、記念すべき第一回「八王子市秋季大会」(昭和50年)では見事「優勝」を果たしています。しかしながら、栄光のOB会も長らく休部状態が続きました。

平成23(2011)年当時、ミシュラン観光地ガイドに認定され一躍有名となり、観光客が押し寄せた高尾山の参道で、偶然、阿川雅俊氏(昭和41年卒)と出逢いました。阿川氏は、興林寺(子安町)住職で、その出逢いがOB会の再活動のきっかけとなりました。

翌年、平成24(2012)年3月に、中高一貫校の初代校長に就かれていた小林幹彦氏のご尽力で、母校体育館において「OB会vs現役生」の記念試合が実現しました。当日は高等部生徒の都合が合わず、中等部男女チームとの対

戦となりましたが、この日のために新調したユニホーム姿でコートに立ち、老体に鞭打ちながらも、激戦の数試合を互角？に戦い抜くことができました。試合後に、全員での記念撮影と共に、我々のユニホームを後輩達に贈呈させていただきました。

その後、いつもの「むら山」さんに場所を移し、懇親会には中等部の若きコーチも交えて、美酒と共に和やかな歓談のひと時となりました。



南多摩高校バスケットボール部 OB会 vs 中等部
ユニホーム贈呈記念試合 2012. 3. 20

更に、翌年、翌々年(2014~2015年)には、私の長女(平成13年卒)が部活マネージャーを務めていた当時の若い後輩OB会グループと、大和田町の市民体育館で対戦し、更に懇親会で親睦を深めました。



それ以降の活動は再び休部状態でしたが、冒頭で申し上げたとおり、漸く第6回目を開催するに至りました。当日は、先年逝去された故・田崎榮氏(昭和41卒)への献杯に始まり、歴代の諸先輩方(稲田健二氏(昭和32年卒)、稲田康三氏(昭和38年卒))の逸話や、自身の現役時代の戦績やプレイスタイル等々懐かしい思い出話が

次々と交され、賑やかなOB会となりました。

あつという間のひと時が過ぎ、来年の再会を約束し閉会となりました。私達のOB会は、今後とも部員の気力と体力の続く限り、毎年開催していくつもりです。

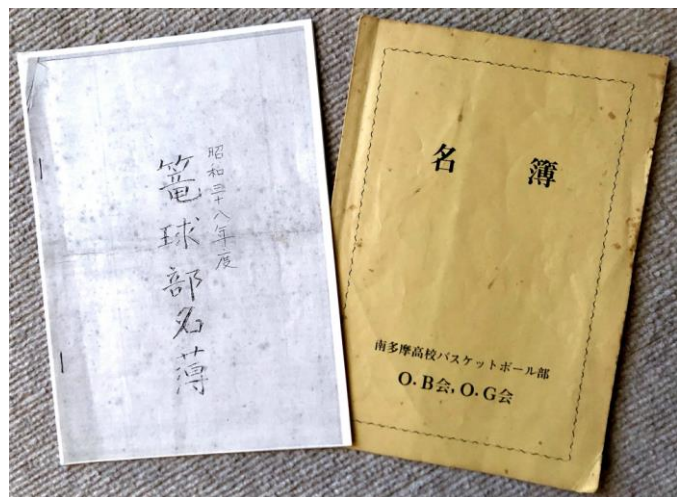
もし、世代を超えてのOB・OG会が活動をされていれば、これを機に何かしらの繋がりができればと思っています。

最後に余談ですが、私は今年古稀を迎えましたが、市内の甲の原体育館でバスケット一般開放の指導員をしています。1997年から今年で、27年間毎週夜間3時間程若い人達と一緒にバスケに汗を流し、現役?でプレイしています。久しぶりにバスケを楽しみたい方がいらっしゃいましたら、大歓迎です。是非お越しください。(毎週木曜日18:00~21:30)

[会員名簿]

瀬沼俊男(昭和38年卒)、大久保仁美(昭和39年卒)、阿川雅俊/井田由伸(昭和41年卒)、永関秋雄(昭和42年卒)、佐藤実(昭和43年卒)、谷村秀樹/藤崎隆司/肥田芳男/山口一可(昭和44年卒)、落合徹夫/小林幹彦(昭和45年卒)、

佐藤恭広/峰尾友久/宮澤孝之/春日幸雄(昭和48年卒)



【あかね会からの報告】

令和6年6月、「最長老OB会」から「学校支援協力金」の寄付を頂戴しました。改めて感謝申し上げます。

南多摩高校時代の思い出と交流

昭和50年卒 高橋(岡野) 文代

昭和50年3月に、南多摩高校を卒業しました。あれから50年、当時のことを思い返してみました。高校時代の思い出と言ったら、何ととってもクラブ活動です。私は中学校時代にテニス部だったので、高校でもテニス部に入部しました。



S49年6月 関東大会(熊谷市)出場時の写真
春日先生、同級生、後輩と一緒に 筆者は前列右から3番目

高校に入学してテニスを始める人も多く、新入部員はとて多かったです。ただ、辞めていく人も多く、卒業まで続けた人は少なかったのです。今でも部活と言ったら、「朝練」「早弁」「昼休みのコート整備」ということで、話が盛り上がります。

1学年上の先輩は試合にとても強く、2年連続で関東大会に出場しました。私達は次の学年ということで、強いプレッシャーを感じていました。顧問の先生、先輩、同級生の応援と後押しにより、3年連続で関東大会の出場を決めたときは、嬉しさと安堵感を感じたことを覚えています。

卒業して10年ほど過ぎた頃、顧問の野口隆雄先生から個展開催の案内ハガキが届きました。毎年春休みの時期に開催され、先生が亡くなるまでの毎年の13回と特別展「10年の歩み」の合計14回を、当時の部員の皆で誘い合い、国立市のギャラリーまで見に行きました。その際には、先輩や後輩と会うことができ、懐かしく言葉を交わしたものでした。



10年ぶりのテニス部忘年会(筆者は左から3番目)

それから数年が過ぎ、もう一人の顧問であった春日奈保先生がお亡くなりになったことを知りました。「お墓参りに行かないですか？」と声をかけ、春のお彼岸を過ぎた頃に、お花とお線香を供えお参りさせていただきました。

帰り道では、「昔話に花が咲く」ようになり、お墓参りは定期的に続くこととなりました。しかし、コロナ禍となって、残念なことに中止となりました。

昨年の令和6年になって再開したところ、墓前で、先生のお姉さまと甥の息子さんにお会いできました。偶然にお二人にお会いしお話ができて、何か不思議なご縁を感じました。春日先生のお墓参りは、これからも続いていくことと思います。

部活動は、辛いときも苦しいときもありました。しかしながら、このように同級生と再会し、楽しくおしゃべりができるのも先生方のお陰と感謝しています。

転機になった南高生活

昭和60年卒 清水(渡辺) 雅子

高校生活が始まる前、私の中に一つの決意があった。中学生までの私は、大勢の人の前で話すと真っ赤になってしまうような内弁慶でまじめな印象。活発でリーダー的な子にはいつも憧れを感じていたものの、緊張して自分の殻を破ることは難しく、内心は前に出てみたい気持ちはあっても、その一歩を踏み出すことは気後れしてできなかった。高校は自分を変えるチャンス、ここでイメチェンしよう！そんな風に思っていたのだ。

入学して、私はドキドキしながら、まるでこれまで活発な生徒だった風に振る舞うことに心がけた。今までは代表する役に立候補をしたことはほとんどなかったが、合唱祭の実行委員に自ら立候補した。私にとっては大きな挑戦。みんなへの指示を出すようなことは、内心バクバクで大丈夫かと、かなり緊張したことを覚えている。とはいえ、はじめは大きな勇気が必要だったことも、慣れてくると自然に声をかけたり、かけられたりするようになり、自信をつけていくことにつながった。同級生に恵まれていたことが何より大きい。



体育祭応援団の写真（筆者は左から2番目）

高校2・3年生は2年間同じクラスで、担任は若い女性の佐伯厚美先生。生徒達に寄り添い、行事をとて応援してくれる先生であった。私達は男女仲良く、「行事

の8組」と周囲から言われるほど、行事という行事に情熱を燃やしていった。中心的な男子達がリードし、球技大会、合唱祭、体育祭、文化祭等々、よく話し合い、放課後だけでなく休みの日や夜なべまでして練習や準備に明け暮れた。全力を出し尽くし、表彰関係は優勝を総取りしていくような目立ったクラスで、さらに団結を強めていった。私も、中心的に活躍する友人達に恵まれて、リーダー的な役割をすることへの抵抗はなくなっていき、気づいたら前に出て、天然な自分を出せるようになっていた。



修学旅行のクラス写真

私達の代はちょうど75周年行事に重なり、八王子市民文化会館で、オーケストラやプロのソリスト達と共に、ベートーベンの「第九」を披露する機会に恵まれた。

「第九」をドイツ語で歌えるようになったことは、その後自分の武器として生かされた。

高校時代のクラスや部活の仲間達は卒業しても飲み会をしたり、スキーに出かけたりと、ずっと親交を深めていった。今なお続く仲間も多く、生涯の友になっている。

私にとって、転換期となった思い出深い高校生活。あこがれは思いをもった行動で現実となっていった。大学

卒業後は、念願の小学校教師になり、その後転機があって、臨床心理学を学んで臨床心理士となり、スクールカウンセラーなど心理職をしている。今も、これからの子ども達のためにやっていきたいことがあり、南高で培っ

た精神は健在。この原稿依頼を受けたことで、高校生活の経験が、私の土台にあることに改めて気づかされ、南高生になれたこと、支えられ、学びあった先生や友人らに、多くの出会いに、心からの感謝がわいている。

南多摩高校卒業の母と私

昭和60年卒 土谷（岸田） 宣子

母と私は、共に南多摩高校の卒業生です。

母の岸田（旧姓井上）茂子は、昭和28年の卒業生ですが、残念ながら平成元年12月に55歳で病気のため世界しました。



昭和32年（浅川中学音楽教師）

母が通っていた頃の南多摩高校の様子について、聞いた記憶は残っていません。あるとすれば、私が南多摩高校に入学したとき、昔はこの学校は女学校で都立第四高等女学校だったという話と、もともと女子高だったから共学になってからも女子が多かったという話を教えてくれたことを覚えています。自分が母の年代になり、もっと昔の話を、例えば昭和26～28年頃の高校の様子や、30年後に同じ高校に娘が通うようになったときの気持ちはどうであったのかなど、母から聞いておけばよかったと思います。

母は、神奈川県津久井郡（現在の相模原市緑区）青根の出身で、中学校卒業後は橋本に住んでいた叔母の家から津久井高校に通学していました。その後、音楽系の大学を受験したいという話から、途中転校し2年生から南多摩高校に編入しました。



昭和27年 南多摩高校

戦時中に疎開されていた美術の中山先生から、母は小学3年生のときにオルガンの手ほどきを受けました。これがきっかけでピアノが好きになり、高校時代も音楽室でピアノをよく練習したとの話も聞きました。

母のその後の歩みですが、高校卒業後は東京学芸大学に進み、卒業後は八王子市浅川中学校で音楽の教員として、結婚するまでの4年間、教鞭を執っていました。吹奏楽部の顧問について話をしてくれ、本当はもっと長く

勤めていたかったようでした。結婚退職後は自宅でピアノを教えつつ、40歳を過ぎてからは絵を描く趣味も増え、音楽にも絵画にも全力で取り組んでいた母の人生は、短いながらも中身の濃いものであったのではないかと感じています。

とはいえ、南多摩高校時代の友人の話や学校の様子を母の口から聞いた記憶はありませんでした。ここ数年の会報「みなみたま」に寄稿のあった、第四高女時代の投稿を読むたびに、母の過ごした高校生活もこのような日々であったのかと思いました。お会いしたことのない方の文章ではありますが、何だかとても懐かしいような思いにとらわれました。

このような機会をくださった同窓会の幹事の方には、本当に頭が下がり感謝しております。

今回自分が投稿する立場となった際、母のことを書くことで、もしかすると母を覚えていらっしゃる方の目に触れることがあるかもとの思いからペンを取りました。

最後に、自分のことにも少し触れます。

私も母の年を過ぎ、定年後の身の振り方等を考える年になってきました。幸いにも、今でも高校時代の友人と会う機会があり、いつも心をリフレッシュしてくれる友人の大切さをしみじみ感じます。

クラスや部活の友人達と「定年の後に海外旅行に行けたらいいね・・・」という話をしていると、本当に実現できたら面白いと、5年後・10年後が少し楽しみにもなってきております。母より長生きしている分、これから新たなことにも挑戦していけたらと思います。



2022年高尾山キッチンムササビにて（筆者は中央）

南多摩高校の思い出 吹奏楽部・大学受験から現在へと

平成22年卒 栗原(狩野) 貴美子

南多摩高校の99期生として卒業し、15年が経ちました。毎年届く会報「みなみたま」で思い出すのは、吹奏楽部での少し苦い思い出です。

中学校から続けて入部した吹奏楽部でしたが、第1希望のサクソはオーディションで落選し、未経験のホルンを担当することになりました。同じホルンパートで同級生の草野さんと渡部さんは、中学からの経験者。とても上手で、いつも教えてもらっていました。



「南多摩高校卒業の日に」(筆者は前列一番左)

何とか追いつこうと、土・日の部活動では誰よりも早く登校し、一人朝練を重ねました。しかし、どうやっても上手くならない。勉強のように「やればやるだけ身に付く」というわけにはいかないのが演奏技術です。「適性」を言い始めたらおしまいですが、2年生になり、新たに入ってきた後輩たちの実力が自分よりも上であることを思い知ると、何とも言えない気持ちになりました。

それまでの人生では、それ程挫折を味わったことがなかったからかもしれません。大概のことをうまくこなし

てきた自分には、受け入れがたい現実でした。

結局、最後の夏のコンクールでもオーディションで落選し、メンバーとして出場することは叶いませんでした。しかし、これをバネに「学業こそは」と思い、2年の夏休み明けから、高校が開く7時30分に登校し朝学習を続けました。社会人となった今思えば、6時30分に家を出ていく娘の弁当を作り続けてくれた母、また勤務時間前に入口を開けてくださった先生方には感謝してもしきれません。志望校も担任の水井先生が親身に相談に乗ってくださり、自分には少し背伸びをした大学を目指すことにしました。

朝学習を続け、夏休みも休まずに登校して勉強し、休校日には図書館に通い勉強に励んだ結果、大学受験では第一志望に合格することができました。そして「もう二度と音楽はやらない」と思っていたにもかかわらず、結局バンドサークルに入部し、下手の横好きながらテナーサクソを吹く学生生活を送りました。

今は楽器をすっかり手放し、埼玉県に移り、5歳の息子を育てながら、県庁職員として保健医療の分野で働いています。保育園の送迎を朝は夫、夕方の迎えは私と分担し、フレックスタイム制度を使い、奇しくも高校時代と同じ7時30分に始業する日々を送っています。

皆が出勤してくる8時30分までが最も集中できる時間で、仕事を黙々と進めていると、時折、南多摩高校時代の朝練習や朝学習が頭に浮かびます。

吹奏楽部時代、朝早く練習していることは誰も知らないだろうと思っていましたが、そんなことはありませんでした。高校卒業時にホルンの後輩たちから寄せ書きをもらいました。

「『いつも朝早くから練習していてすごい』と思い、自分も頑張らなければ、といつからか尊敬するようになりました」。一番ホルンが上手だった彼からもらったメッセージは、今でも私の背中を押してくれます。「努力は無駄にはならない」と自分に言い聞かせ、今日も窓際で、息子が名残惜しそうに手を振る姿を背に、仕事に出かけていきます。

埼玉県庁就職後の出来事について

平成23年卒 馬場 雄太郎

埼玉県総合リハビリテーションセンターで働くようになってから2年が経過しました。

私の職務内容は、リハビリテーション専用の入所施設

にいる方々の日常生活支援となります。わかりやすく言えば、身体障害者手帳を交付された人たちの中で、日常生活を送るために必要なリハビリテーションを受けたい

方々が入所する施設で必要な介護支援を行うスタッフのような立ち位置です。自分の仕事をこのようにまとめると、多くの方は『介護』という単語によって大体のイメージを掴まれるような気がします。



埼玉県総合リハビリテーションセンター

介護といえば食事、排泄、入浴や一昔前でいうところの「3K」と呼ばれてしまう印象が残っています。私も学生時代はそういった考えを持っていました。実際に介護職員初任者研修(旧ホームヘルパー2級)を取得し、現場研修を終えたときも同じでした。

しかし、介護といっても日常生活の全てに介助が必要ということではありません。入所者の多くは車椅子で生活をしています。半分以上の方々は杖歩行もできない方々です。受障原因も人によって理由は様々ですが、脳血管障害と外傷による脳障害が多いです。

また、3割程度の方々は脳障害によって言語障害を患っています。そして『リハビリ』といっても、受障前まで動けなかった手や足が動けるようになることはありません。残っている運動能力を如何に利用するか、道具を活用しながら自分でできることを増やしていくことを目指しています。年齢も生い立ちも多種多様な方々が頑張っていてリハビリを受けられている姿を見ると、できる限りサポートしていきたいと感じながら日々仕事を続けています。

私は、大学時代に介護に関する資格を習得しながらも、卒業後は地域福祉に携わる仕事である社会福祉協議会に7年間勤めました。介護研修も経験したことで、ある程度福祉に携わる耐性というか抵抗感といったものが軽減されると考えていました。

しかし、地域福祉で関わってきた人の多くは公的な制度に様々な事情があって受けていない人たちでした。その理由も人によって様々で、公的なサービスを知らない人もいれば、客観的に見て明らかに問題を抱えている人であるにも関わらず、本人が他人や社会に助けを求めていることもありました。

こういった社会的な助けを拒絶している人や制度の狭間にいる人を対象として、共に伴走しながら支援する仕事から、公的なサービス支援に転職したことで自分の見識が広がってきたように感じています。

高校時代に先生から渡されていたお知らせには、『自ら学ぶ』という言葉が常に記載されていました。3年生になったときには、『自ら学べ』と表現が変化していたことをよく覚えています。

今でもその姿勢を忘れずに、日々精進しております。

30代になって

平成24年卒 松葉 優樹

南多摩高校を卒業してから10年以上が経ちました。

現在、私は八王子市役所の職員として働いていますが、これまで大きなトラブルもなく平穏無事に生きて来られたのは、自分の家族や友人、学生時代の恩師たちなど、周りの方々に恵まれていたのだらうと思っています。

私にとって、3年間の高校生活はかけがえのない思い出ですが、特に印象に残っていることが2つあります。

1つは、演劇部で活動していたことです。私が所属していた時期の演劇部は、部員が多いときでも10人弱の小さな部でした。自分たちで一から劇を創作して、台詞を覚え演技をすることは、大変ながらもやりがいがありました。小さな頃から、私は人前で話すことが好きな性格でしたが、演劇部での活動でそれが活かされた気がしています。



筆者は前列中央

当時演じた役のセリフや、いつも行っていた発声練習の内容などは、今でもおぼろげながら覚えています。高

校時代に打ち込めたことがあったことは、幸せだったと今になって思います。

もう1つは、放送委員会での活動であり、高校2年生から1年間、放送委員長を務めました。主な仕事は合唱祭、体育祭などの学校行事を行うため、放送用の機材を準備する仕事であり、生徒として学校に貢献する活動をやりたいと考えたのが委員長になった理由です。

ただ、自分で立候補してなってみたのはいいものの、元々機械に強くなかったり、集団をまとめて方向性をリードする経験が乏しかったのです。このため、上手い出来ないことも多く、先生や先輩たちに迷惑をかけてしまったと思っています。

それでも、自分がリーダーの立場で仕事をした経験を持てたことで、それまであまり意識していなかった自分の行動に伴う責任について考えるようになりました。失敗も多かったですが、そうした経験はその後の社会人生活において役に立ったと思っています。

私は大学卒業後に市役所で働き始め、今は30代ですが、高校時代の楽しかった思い出は今でも覚えていますし、一度しかない学校生活がよいものになったのは幸せなこ

とだと思っています。

市役所の職員は、地域の方々のために働くことが仕事ですが、私は生まれ育ったこの八王子という場所が好きです。楽しかった高校時代も含め、これまで私は地域の人たちなど、自分の周りの方々に支えられて育ってきたのだと思っています。

そうした周りの方々への感謝の思いを、仕事の上での原動力としてこれまで働いてきましたし、これからもそうした思いを持って頑張っていきたいと思っています。



八王子市役所

お知らせ

同窓会の活動及び母校の支援について

◆令和6年度「あかね会定期総会」開催

令和6年5月19日(日)11時から八王子エルシィで定期総会が開催され、新入会員6名を含む34名が出席しました。



第1部の定期総会は、中村晋也副会長の進行により始まり、浜中賢司会長の挨拶に続き、名誉会長の宮嶋淳一校長からは、「卒業生、生徒は南多摩への愛着が強い。合唱祭

での他クラスへの応援、卒業生の生徒へのチューター協力など、南多摩の強さは同窓会の支援の賜物と思われる」とご挨拶をいただきました。

次の総会は、議長に齋藤博志常任委員(昭和50年卒)が選出され、議事が進められました。

令和5年度の事業報告、決算報告、監査報告のほか、令和6年度の事業計画案、予算案が説明され、これらは異議がなく承認・可決されました。

役職	氏名	卒業年
会長	浜中 賢司	S44
副会長	中村 晋也	S53
	川崎 恵美子	S51
	入沢 修自	H5

総会終了後に、浜中会長から13名の現役員の紹介があり、入沢修自副会長の閉会の挨拶をもって、第1部が終了しました。

第2部は、昭和47年卒業の小林伸好^{うろし}さんを講師に迎え、「漆芸に関わって」の演題で講演会が行われました。

講師の小林さんは、東京芸術大学大学院卒業後、青森で14年を過ごし弘前に移り、その後山形の東北芸術工科大学で教鞭を執りつつ、漆一筋に技術を磨いてきました。

漆のかぶれの話、漆掻き職人の話し、漆は欧米にはなく、東アジアで取れるもので中国、ベトナム、ミャンマーなどが主な産地である。また、日本では縄文時代から使われている。漆



講演の小林伸好さん

を塗るハケを持参され、日本製のものには性能が良いと話されました。あっという間に、漆の講演会は時間の40分を迎え終了となりました。

第3部の懇親会は、入沢副会長の進行により始まり、浜中会長の挨拶のあと、滝島徳久PTA会長から「平素は

生徒達が同窓会にお世話になり感謝します。

PTAも生徒のためにあかね会とタッグを組んで取り組んでいきたい」とご挨拶いただきました。



挨拶に続き、9年前に「アメリカ横断ドライブの旅」の講演をされた福島雪男さん（昭和35年卒：昨年10月に逝去されました）の乾杯の発声で懇親会が始まりました。

しばらくの間、美味しい料理に舌鼓を打ち、歓談が一区切りしたところで、新会員の紹介が行われ、参加した新会員6人それぞれから挨拶を兼ねて在校時の楽しかった思い出などについて話をさせていただきました。

その後、常任委員でシンガーソングライター「SIO」の小塩晶人さん（昭和62年卒）に中島みゆきの「糸」とご自身の作詞・作曲による「風に乗って」の2曲をギターを生演奏で歌っていただきました。

最後に、9期生の皆さんのリードにより、母校の校歌「湧水は街を巡り・・・」を合唱し、川崎恵美子副会長の閉会の言葉をもって散会となりました。



◆「南魂祭」116回文化祭

母校の南魂祭「文化祭」が、令和6年9月7日～8日に開催され、9月7日にあかね会の役員2名が訪れました。当日は校舎の屋上からクラスの垂れ幕が飾られ、開場前から数多くの観客が入場を待っていました。



なんふいる・わあるど

体育館で「なんふいる・わあるど」を鑑賞しましたが、400～500人の観客で暑さムンムンでした。ヨハン・シュトラウスのポルカ「雷鳴と電光」のほか、リトルマーメイド・メド



9期生による「あかね屋」

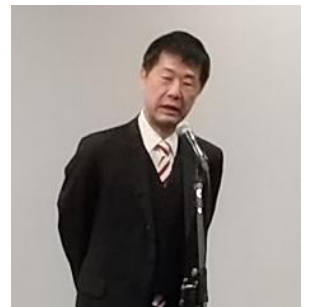
レーなどが、約100名の団員によって力強く演奏されました。

ランチルームでは、あかね会新会員の9期生37名による「あかね屋」が5年ぶりに開かれていました。あかね屋では、お弁当、おにぎり、飲料水が販売され、南魂祭の裏方として2日間の文化祭を支えていました。

桂優子副校長や宮嶋淳一校長先生にお目にかかり、校長先生から「今年は、嬉しいことに人出が多く大変です」とお話をうかがいました。中庭では3団体のライブ公演が行われるなど、生徒の頑張っている姿に感慨を覚えました。

◆あかね会新年会の開催

令和7年1月25日(土)の12時から八王子エルシィで、あかね会新年会が開催されました。



宮嶋淳一校長先生

会は入沢修自副会長の進行で進められ、浜中賢司会長から、学校・PTA関係者出席の御礼につづき、中等卒業生の進路や生徒活動を同窓会として支えたいと挨拶がありました。

続いて、来賓の宮嶋淳一校長先生の挨拶では、文化祭での「あかね屋」の久々の出店、来場者が前年より4割以上増の7千名となったこと、特に小学生が楽しそうだったのが印象に残ったことなどが話されました。

滝島徳久PTA会長は、部活動が全国レベルの活躍であり、特に太鼓部は今年の香川県総文全国大会（丸亀市）に参加する。宮嶋校長は学校改革に取り組み、世界で羽ばたく生徒育成を目指していると挨拶されました。



滝島徳久PTA会長(右)

懇親が齋藤博志氏

(昭和50年卒業)の乾杯の発声により始まり、1時間を経過したころ、「新春インタビュー」が行われ、桂優子副校長先生、PTAの川本洋輔氏など参加者から近況や新年の抱負などを話していただきました。

最後に、参加者全員で校歌を斉唱し、集合写真を撮り、中村晋也副会長の閉会の挨拶で閉会となりました。



山梨ワインと家庭料理
ホテルベル鐘山



歌手・ホテル・やまなし大使

TEL **0555-24-8888** 山梨県富士吉田市 上吉田東 9-8-10
(有オフィスめぐみ・伊達めぐみ後援会事務局 **伊達めぐみ** 平成3年卒業)

夢レコード
ユニット **A-9女史**



新曲!
「星空からやってきちゃった」

NAKANO

学校法人 八王子中村学園
なかの幼稚園

日本一幸せな幼児期を
過ごしてほしいと願っています。

〒192-0041 八王子市中野上町 5-32-13
TEL:042-622-3001・FAX:042-624-3103
<https://www.nakano-kd.ed.jp/>
前理事長 中村 健(昭和46年卒)

グループホーム
びおら

高齢者認知症の方の共同生活
介護を提供しています。

齊藤 万理子 (昭和44年卒)
〒192-0056 八王子市追分町9-4
TEL.042-682-1301
FAX.042-682-1305
<https://www.biora.biz/>



あかね会の皆様へ

SIO シンガーソングライター (シオ)
(S62年卒 小塩晶人)

2025年6月22日 (日)

日野市民会館大ホール
「僕らの町コンサート」

15:30開演 3,000円



QRコード
公式SITE

目指せ1000人! 応援よろしくお願ひいたします。

ISO 9001 認証取得
Ea エコアクション 21 認証取得

黒須建設株式会社

代表取締役社長 黒須 光隆
取締役 黒須 俊輔 (平成20年卒)

本社 〒192-0063 東京都八王子市元横山町1-29-12
TEL 042-642-5331(代) FAX 042-642-5314
<http://www.kurosui-kensetsu.co.jp>



不動産プラザHAGIUDA

代表取締役
萩生田 俊一
(平成元年卒)

50th ANNIVERSARY

萩生田観光株式会社

〒192-0355 八王子市堀之内三丁目 29 番地 20
TEL : 042-675-3111 MAIL : shun@hagiuda.co.jp



一級建築士事務所

株式会社 浜中企画

浜中 賢司 (昭和44年卒)

〒193-0801 八王子市川口町 3411
電話:042(654)4325 FAX:042(654)6128
mail: hamanaka@tokyo.email.ne.jp

お客様の悩みまるっと解決! 町の水道屋さん

株式会社 市川工業所

専務取締役 野澤 経子 (旧姓 市川) (昭和55年卒)

〒192-0065 八王子市新町8-4
TEL : 042-642-4808 FAX : 042-642-6829
corp@ichikawa-works.co.jp

医療法人社団 大島会

大島耳鼻咽喉科・気管食道科クリニック

院長 大島 清史
大島 富子 (昭和25年卒)

〒192-0046 八王子市明神町 4-5-9
TEL : **042-642-8012**
<https://www.oshima-ent.com/>

豊田駅北口徒歩2分

あさひ耳鼻咽喉科クリニック

谷合 隆 (昭和44年卒)

〒191-0062 日野市多摩平1-4-19 藤ビル 3F
TEL : 042-587-4800

診療時間 [午前] 9:30~13:00 [午後] 15:00~19:00 (土曜は18:00まで)

京王八王子駅西口出口すぐ前

糠信歯科医院

院長 糠信 安宏 (南多摩中等教育学校歯科校医)
糠信 和代 (昭和29年卒)

八王子市明神町4-2-9 昴ハイツ2F(京王八王子駅西口出口前)
電話: **042-642-3131** [休診日: 木曜・日曜・祝祭日]

透明で目立たないインビザライン矯正

医療法人社団 新健会

健にここにこ歯科・矯正歯科

院長 新藤 健太郎 (平成4年卒)

〒193-0801 八王子市川口町 1559-3
TEL : 042-654-5014
<https://www.kenico-dental.com>



刷新ing

お任せ下さい！印刷のすべて。

取締役副社長 野口 富巳子 (昭和35年卒)

有限会社 **三共社** 〒192-0041 東京都八王子市中野上町2-29-1
TEL: (042) 625-8325 FAX: (042) 625-8369
<http://www.san-p.co.jp>



学校法人片柳学園

理事 黒須隆一【昭和35年卒】

東京工科大学
日本工学院専門学校 日本工学院八王子専門学校
日本工学院北海道専門学校 東京工科大学附属日本語学校

www.katayanagi.ac.jp

税金のご相談は



税理士 小澤 麻理 (旧姓 小野島 平成5年卒)

TEL 042-663-6683 **おざわ会計 八王子**

〒193-0832 八王子市散田町3-19-19 2F

法あるところに救済あり！

司法書士・行政書士 空衣事務所

相続登記はお早めに！

代表 入沢 修自(平成5年卒)

〒206-0011 東京都多摩市関戸4-23-1 関戸ビル301
電話:042-389-5570 Fax:042-389-0755
<https://www.sorai-law.com>

TKC. KFS 推進事務所

税理士法人 西東京会計

代表社員 加藤 晃(昭和38年卒)

〒192-0032 東京都八王子市石川町733-4
TEL:042-644-1771 FAX:042-645-7372
<https://www.tkenf.com/ntk/>

伊藤税務会計事務所

税理士 伊藤 正啓
伊藤 幸子 (昭和32年卒)

〒192-0045 八王子市大和田町3-6-21
TEL:(042)642-2719 FAX:(042)642-5034

損害保険、生命保険代理店
代理店を通じて皆様のネットワーク作りのお手伝いします。

有限会社 保険のイツツ

一宮 龍之
(旧姓 中川 昭和45年卒)

TEL : 042-587-3808 FAX : 042-587-3813
mail:y-its3808@viola.ocn.ne.jp

コンピュータソフト開発&運用

(有) ライズ

代表取締役 中村 晋也(昭和53年卒)

〒192-0066 八王子市本町30-6 (N-Twoビル3F)
電話:042-620-5425 FAX:042-689-4149

有限会社 保寿産業

代表取締役 小川 禎子 (昭和31年卒)

〒190-0023 立川市柴崎町1-9-32
TEL : 042-526-2646 FAX : 042-529-7500

冷凍食品で楽しい給食 (病院、施設の給食品専門問屋)



株式会社 増田禎司商店

代表取締役 増田太郎/増田敦子(旧姓 土屋)(昭和34年卒)

〒193-0801 八王子市川口町1415
TEL:042-654-2222 FAX:042-654-5049
<https://masudaya1965.com/>
mail:info@masudaya1965.com

LPガス・リフォーム・ウォーターサーバー



MARUI GAS TOKYO

マルキガス東京株式会社

代表取締役 滝島 徳久
滝島 凜夏 (令和5年卒)

<https://mgtokyo.jp> 東京都八王子市檜原町542-1 042-622-3772



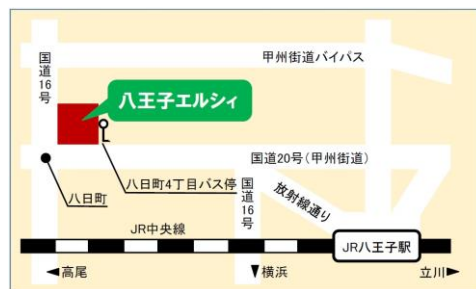
通用門近くにある横川様子の銅像

「令和7年度 南多摩同窓会あかね会 定期総会」について

南多摩同窓会「あかね会」は、同窓会の規約で、毎年5月の第3日曜日に八王子市内で定期総会を開催することとしています。

定期総会は、事業計画や予算案を審議しますが、総会後には卒業生を講師とした講演会の開催や年代を超えた卒業生の懇親会も予定しています。

定期総会は、現在の母校の状況を知る貴重な機会であり、共に学んだ仲間との再会、先輩や後輩の新たな出逢いの場でもあります。同級生、クラブ活動を共にした仲間等と誘い合っご参加ください。



八日町交差点角（八日町4丁目バス停下車）

令和7年度定期総会

【日時】令和7年5月18日(日)11時～

会場受付 10時30分～

【場所】八王子エルシィ【JR八王子駅下車バス5分】

八王子市八日町6-7 ☎042-623-2111

【懇親会費】5千円（学生2千円）（会費は当日徴収）

【プログラム】

総会 11時～11時40分

事業報告・決算、事業計画・予算その他

講演会 11時50分～12時30分

藤崎隆司さん（昭和44年卒業）

テーマ「人生いろいろ～バスケットと日本画と」

東京学芸大学教育学部卒業。学芸大附属養護学校教員、

東京都立高等学校教員の傍らバスケットボールで東京都教員チームに所属し国民体育大会などに出場。同僚教員（美術）に師事し、日本画教室に通い絵画の道に進む。

懇親会 12時40分～

昼食、懇談、新入会員の紹介、校歌斉唱等

【申込方法】5月11日(日)までに、次のQRコード又は電話でお申込みください。

【電話】

入沢 修自 ☎080-5075-5570

瀧口 陽子 ☎090-9963-6073



「学校支援協力金」のお願い・名簿の頒布

「学校支援協力金」は、同窓会として、在校生の学習、部活動、進路指導などを支援するほか、卒業生への卒業証書フォルダー贈呈に使用させていただいています。

昨年の会報第15号で、卒業生会員（約3万名）のうち物故者、消息不明の方を除く1万5,000名の方に支援を募ったところ、広告料を含め、約600人の会員から150万円のご協力をいただきました。今年も会報を通じて支援を

募集します。基金は1口千円ですが、なるべく2口以上でお願いしております。ただし、金額は任意ですので、お志のある方は可能な範囲でご協力をお願いします。

また、2018年2月に「会員名簿」を発行し、若干の残部があります。会員でご購入をご希望の方はご連絡ください。送料込4,600円で頒布しております。

⇒連絡先 溝口 猛【電話】090-6489-5939

住所変更の際には、同窓会にご一報ください

会誌を送付すると、毎年多数の戻り便が発生しています。会員の皆様にご住所やお名前の変更がありましたら、右記の同窓会名簿担当にご連絡をお願いします。

【メール】meibo@akanekai.org

【郵便】〒192-8562 八王子市明神町4-20-1

都立南多摩中等教育学校内 あかね会名簿担当あて

昭和52年卒業生 同窓会協力者の募集について

都立南多摩高校 昭和52年卒業の皆様

卒業50周年を記念して、2026年（令和8年）に昭和52年卒業同窓会（学年会）を行いたいと思います。

つきましては、協力者を募集しますので、下記メールアドレスへご連絡ください。お待ちしております。

nanko_s52@googlegroups.com

中野 幸治（4組）、山口 慶介（6組）